

“次回の市民講座@箕面文化・交流センター(6/4)”

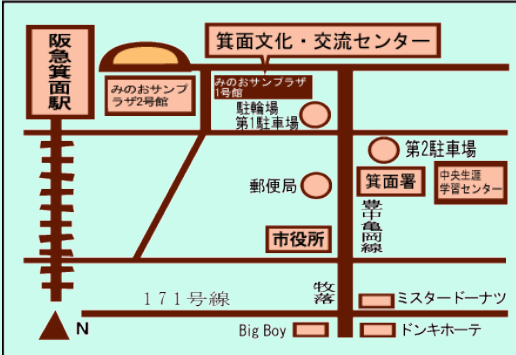
きたる6月4日、土曜日午前10時から箕面駅から徒歩数分の箕面文化・交流センターにて、昨年に引き続き公開市民講座を行うことが決まりました。

今回の講演会は、最近ちまたで見掛けるようになった「ロコモティブ・シンドローム」、通称「ロコモ」に関して当センター長・相原雅治が分かりやすくお話しをします。

そして、当院のリハビリスタッフ2名が自宅で出来るロコモ体操や、腰痛体操を皆さんと一緒にいたしますので、お気軽にご参加ください。

* 詳細は、外来のチラシでご確認ください *

日時:平成23年6月4日 土曜日 9時半開場
10時開演 12時終了予定
場所:箕面文化・交流センター
大阪府箕面市箕面6-3-1



センター長の海外探訪記 “ヨルダンの巻”

ヨルダンの中東の中でもイスラエルやイラクと接するため、日本では少々危険なイメージのある国です。(私はパレスチナに医療支援に行った時に訪れました。)

しかし、ご年配の方には「アラビアのロレンス」の舞台となった国。そして、もう少し若い年代には「インディージョーンズ」の映画のロケ地ですと言うとイメージが変わりますよね! ?しかも、有名な死海でプカプカ浮けますし、世界遺産のペトラ遺跡やローマ時代の遺跡、世界で最も綺麗な海と言われる紅海にも面しており、実はとても観光資源に富んだ国なのです。

勿論、イスラム圏なので、ホテル内の外国人用のレストラン等でしか飲酒は無理ですし、世界情勢で状況は若干不安定となりますが、国内は治安もよく、異国情緒を味わえますし、自然や歴史的建造物が好きな方にはとてもお薦めの国ですよ!



人工関節に特化した「人工関節センター」と乳がん診療に特化した「プレストセンター」を開設しており、より高度な専門医療を提供しております。

- 関節外来:岡 史朗 月・火・水曜午前9時から12時
- 関節外来:相原雅治 水・木・金曜午前9時から12時
- 脊椎外来:加藤泰司 毎週火曜 午後4時半から7時
- 理学療法士:岡本浩明・樋口慧
- 診察時間:平日午前9時から12時、午後4時半から7時 (水曜夜診休診)

土曜午前9時から12時 (祝日休診)
相原病院・人工関節センター tel. 072-723-9000
箕面市牧落3-4-30 fax. 072-723-9052
ホームページ: <http://www.aiharahp.com/>

この新聞の名称「ぶらな」とは、仏教の元言語となるサンスクリット語で“空気”や“清浄な気”を示す言葉です。我々は、関節や脊椎疾患に負けずに積極的に人生を楽しんでいきたい!と考えている“強い気を持っている方々”を応援する為に、色々な形で情報を発信していこうと考えています。

こんな情報が欲しい、こんな事をして欲しいなど希望がありましたら、お気軽にファックスでお伝えください。

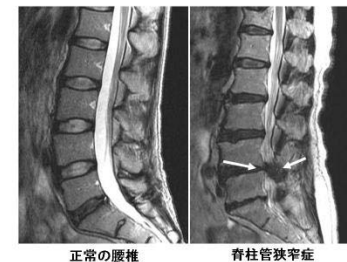
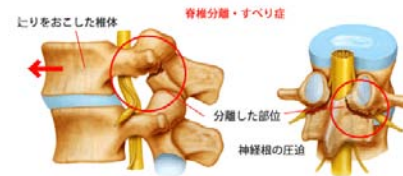
「ぶらな」

“人生を積極的に生きる人を応援する医療情報誌”

非常に残念なことです。東日本大震災で多くの尊い命が失われ、今でも多くの方々が被災され、不自由な毎日をおくっていらっしゃいます。当院としては日本赤十字に義援金と、箕面市を通じてオムツなどの物資を現地に送るなどの支援を行いました。被災された地域の日でも早い復興とをお祈りするとともに、これからも出来る範囲での支援を続けたいと考えています。

“関節の病気と腰の病気は関係ありますか?”

膝や股関節の病気を持っている方は、腰痛も訴えられることが多いのですが、腰の病気と関節の病気の関係について簡単に説明します。



股関節の病気などでびっこを引いて歩くことを医学的には跛行といいますが、片方の股関節が悪くて跛行が続くと、その負担は腰椎と逆の膝にくることが多いのです。

特に、腰には5つの腰椎の骨がありますが、その中でも下の方に負担が多くなり、側彎や腰椎すべり症、腰部脊柱管狭窄症などの疾患を引き起こすことが多いと言われます。ですから、股関節の病気で手術のタイミングを遅らせ過ぎると、腰痛だけでなく下肢痛や坐骨神経痛が出現することがあります。

膝の病気を持っている方は、この跛行による腰への負担もありますが、基本的に変形性膝関節症の患者さんは体重が重いことが多いので、体重による腰痛の訴えが多いですし、長年その重みを腰が支えていることにより、腰椎が徐々に変形する変形性腰椎症から腰部脊柱管狭窄症に進行する人が多く見受けられます。

坐骨神経痛や大腿部からふくらはぎの後ろ側の突っ張った様な痛みやしびれが強くなった場合は腰椎のチェックを要します。

まずはレントゲンで骨自体の変形や椎間板の厚みが保たれているかを確認後に、CTやMRIで脊柱管の広さが保たれているかなどを確認の上、プロスタグランジン製剤で神経圧迫部の血流を改善したり、腰部のブロック注射、牽引などの物理療法などを行いますが、歩行が10分程度しか出来なくなると、場合により手術を要することがあります。

当院では腰椎の手術も行っていますし、火曜日の夜診には元市立豊中病院医長で脊椎脊髄病専門医の加藤泰司先生に脊椎の専門外来をしてもらっていますので、ご心配な方は外来受診の上、お気軽に御相談ください。

相原病院・人工関節センター新聞
第六号
2011年4月吉日

Microplasty
minimally invasive hip program



近隣病院の
人工関節手術数
(平成21年度)

病院名	症例数
相原病院 (H22年)	136
(H21年度)	98
箕面市立病院	35
ガラシア病院	94
市立豊中病院	80
国立刀根山病院	42
市立池田病院	61
市立川西病院	34
市立伊丹病院	201
済生会千里病院	48
近畿中央病院	40
宝塚市立病院	16
豊中若葉会病院	19



医療法人 啓明会
相原病院
Provides the best medical service

“理学療法士 新スタッフ紹介”

リハビリテーション科・理学療法士 樋口 慧

みなさん、こんにちは。4月より、相原病院で勤務することとなりました、理学療法士の樋口 慧(ひぐちさとし)です。この度はみなさんへのごあいさつと自己紹介をさせていただきます。

私は昭和60年に兵庫県の明石市で生まれ、専門学校を卒業するまでの間、ずっと明石で過ごしていました。

理学療法士になりたいと思い始めたのは、12歳くらいの頃に父が買ってくれた職業紹介の本を読んだことがきっかけでした。専門学校に通うまでは実際に理学療法士という職業にふれる機会はまったくなかったのですが、その本を読んだ頃から、理学療法士になりたいと決めていました。

忙しい学校生活と国家試験を乗り越え、なんとか理学療法士免許を取得し、箕面市立病院に勤務することとなりました。また、その頃から箕面で一人暮らしを始め、今年の4月で箕面に来て5年目となります。



相原病院で勤務するきっかけとなったのは、専門学校時代の先輩であるリハビリテーション科の岡本先生からお誘いを受けたことでした。勤務先が変わるという事は自分自身、大変考えさせられる事柄でしたが、岡本先生とは理学療法士としての興味のある分野や考え方にも共通点があり、また、人工関節センターという専門性のある病院で学びたい、働きたいという思いもあり、相原病院でお世話になることとなりました。

建設的な考え方を心がけ、精一杯頑張ります。みなさん、宜しくお願いします。

余談ですが、私は写真の趣味があり、ふらふらと各地に撮影に行くことがあります。下の写真もその一部で、イタリアはローマのコロッセオと現地のねこの写真です。



～ 略歴 ～

平成19年

大阪医療福祉専門学校卒業

理学療法士免許取得

箕面市立病院リハビリテーション部勤務

平成23年4月～

相原病院リハビリテーション科勤務

現在に至る。

「人工関節センター、この1年を振り返って・・・」

センター長 相原雅治

早いもので、相原病院に人工関節センターが発足して2年になります。私が関西労災病院・副部長で人工関節部門を中心に診療を行っていた頃から、治療内容に大きな変化はありません。手術とリハビリの方針も大きく変えていませんが、関西労災時代よりもリハビリに関してはとても柔軟に行えていると思います。

大きな基幹病院では、医師、看護師、理学療法士が数多くいる為、マニュアルに沿った治療になります。皆さんにほぼ同じ治療メニューを行える反面、画一的にならざるを得なくなるので、早くリハビリを進めていける方も、ゆっくりでしか進めない方もほぼ同じメニューで進めないと、収集が着かなくなるのですが、当センター規模であれば、各患者さんの病状や退院後の環境に合わせてリハビリメニューを設定できますし、指導内容にも個々人で調節が可能です。

昨年の当センターの人工関節の手術件数は136件で再置換術等の難易度の高い手術も行い、脊椎の手術件数は13例です。それ以外にも多数の外傷の手術を行いました。

今では十数ヶ所の診療所や病院から人工関節の手術依頼の紹介を受けており、近隣の開業医の先生方とも良好な信頼関係を保っており、箕面、豊中、池田の市立病院をはじめ、大阪大学病院、関西労災病院などの基幹病院とも連携がとれています。

講演会は、昨年3月に箕面で、7月に宝塚・中山台で、今年の3月に豊中の岡町で当センターのメンバーのみならず、かとう整形在宅クリニックの加藤泰司先生、豊中渡辺病院の渡邊哲先生などの他施設の先生方とも協力して医療情報を発信し、地域医療に貢献をしています。



バイオクリーンルームの手術風景



講演会風景



担当医が専門医としての技量を持っている・いないに関わらず、病院の大きさと患者さんが自然に集まってくる基幹病院と異なり、当センターは発足2年と若い施設で、まだまだ無名に近い状況ですが、インターネットなどで派手な広告活動などをせず、ひとり一人の患者さんにスタッフ一同全力で治療にあたり、着実に症例と経験を重ねることで、信頼を得ていく方針で頑張ってきました。

その甲斐もあり、皆さんの口コミも増えて、近隣の市立病院以上の人工関節の治療に携わることが出来ました。

多くの患者の皆さんから、退院時や再診時に痛み無く歩けることの喜びやお礼の言葉を頂き、我々のやり方に間違いは無いのだと、少しずつ自信を深めています。これからは常に皆さんのお声に耳を傾け、進化していかなければならないと考えている今日この頃です。



加藤泰司先生と



渡邊哲先生と